【ア．過年度の卒業生に対するアンケート踏査等】

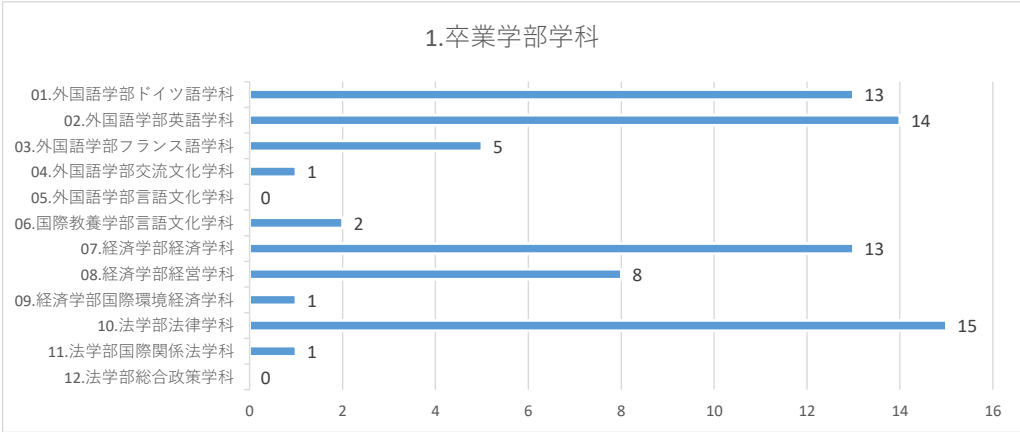
2023年度卒業生アンケート集計結果

回答日：2023年8月24日～9月10日

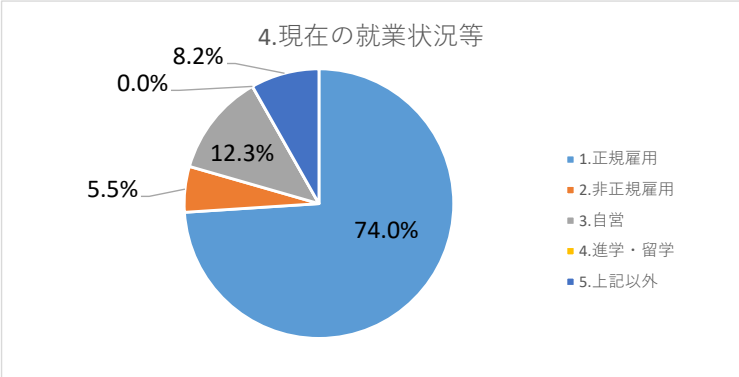
対象：卒業生

回答数：73件

1.卒業学部学科	
01.外国語学部ドイツ語学科	13
02.外国語学部英語学科	14
03.外国語学部フランス語学科	5
04.外国語学部交流文化学科	1
05.外国語学部言語文化学科	0
06.国際教養学部言語文化学科	2
07.経済学部経済学科	13
08.経済学部経営学科	8
09.経済学部国際環境経済学科	1
10.法学部法律学科	15
11.法学部国際関係法学科	1
12.法学部総合政策学科	0

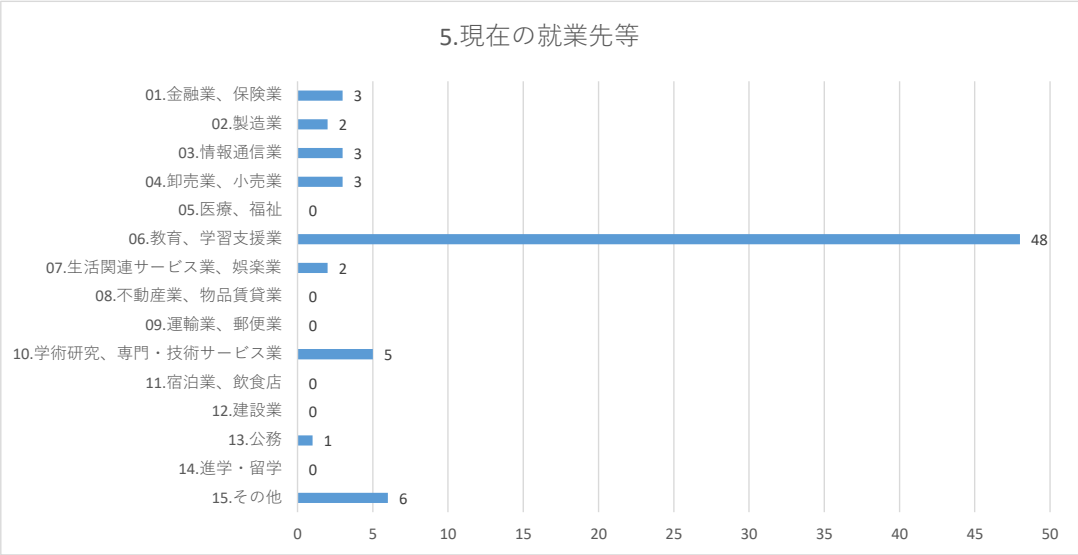


2.卒業年	2022年以前	
3.卒業月	3月及び9月	
4.現在の就業状況等		
1.正規雇用	74.0%	54
2.非正規雇用	5.5%	4
3.自営	12.3%	9
4.進学・留学	0.0%	0
5.上記以外	8.2%	6
		73



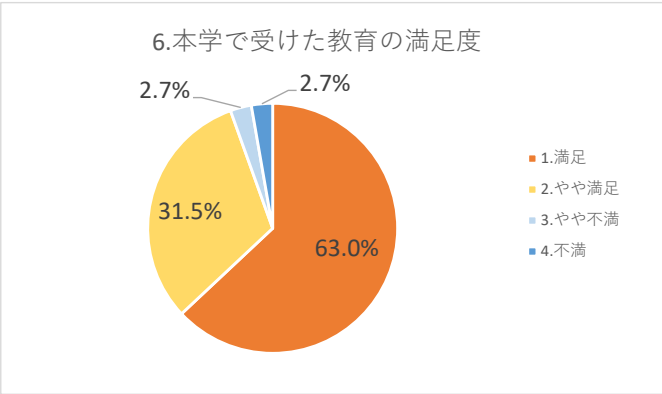
5.現在の就業先等

01.金融業、保険業	3
02.製造業	2
03.情報通信業	3
04.卸売業、小売業	3
05.医療、福祉	0
06.教育、学習支援業	48
07.生活関連サービス業、娯楽業	2
08.不動産業、物品賃貸業	0
09.運輸業、郵便業	0
10.学術研究、専門・技術サービス業	5
11.宿泊業、飲食店	0
12.建設業	0
13.公務	1
14.進学・留学	0
15.その他	6



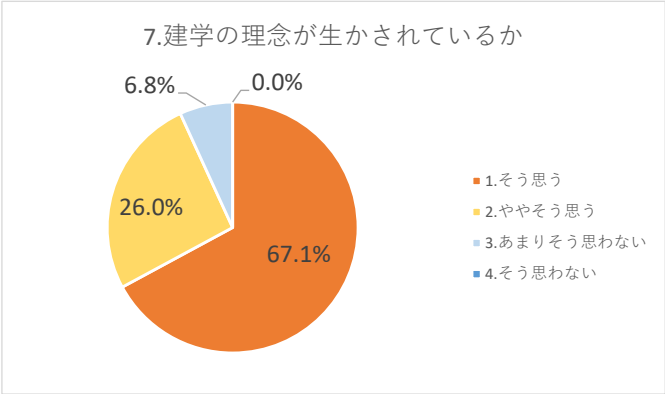
6.本学で受けた教育の満足度

1.満足	63.0%	46
2.やや満足	31.5%	23
3.やや不満	2.7%	2
4.不満	2.7%	2
		73



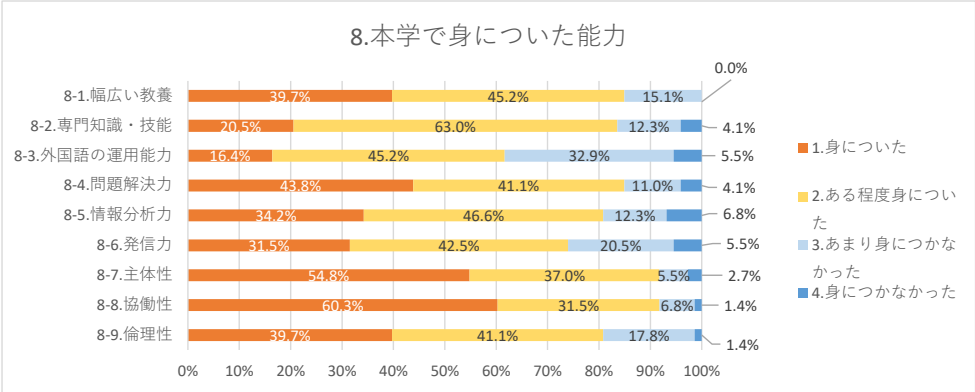
7.本学の建学の理念「大学は学問を通じての人間形成の場である」について、これまでの人生を振り返ってみて、この考え方や理念が生かされていると思いますか？

1.そう思う	67.1%	49
2.ややそう思う	26.0%	19
3.あまりそう思わない	6.8%	5
4.そう思わない	0.0%	0
		73



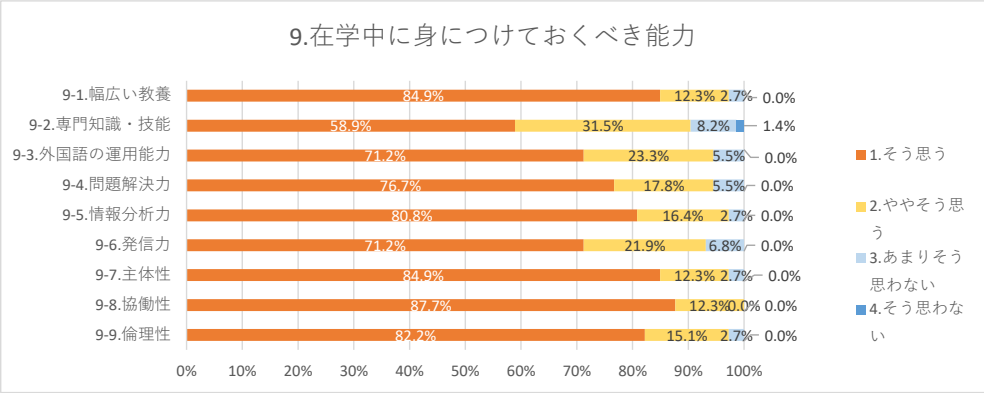
次の能力（8-1～8-9）について、本学で学んだことにより身についたと思いますか？

	1.身につい	2.ある程度	3.あまり身	4.身につかなかった
8-1.幅広い教養	39.7%	45.2%	15.1%	0.0%
8-2.専門知識・技能	20.5%	63.0%	12.3%	4.1%
8-3.外国語の運用能力	16.4%	45.2%	32.9%	5.5%
8-4.問題解決力	43.8%	41.1%	11.0%	4.1%
8-5.情報分析力	34.2%	46.6%	12.3%	6.8%
8-6.発信力	31.5%	42.5%	20.5%	5.5%
8-7.主体性	54.8%	37.0%	5.5%	2.7%
8-8.協働性	60.3%	31.5%	6.8%	1.4%
8-9.倫理性	39.7%	41.1%	17.8%	1.4%



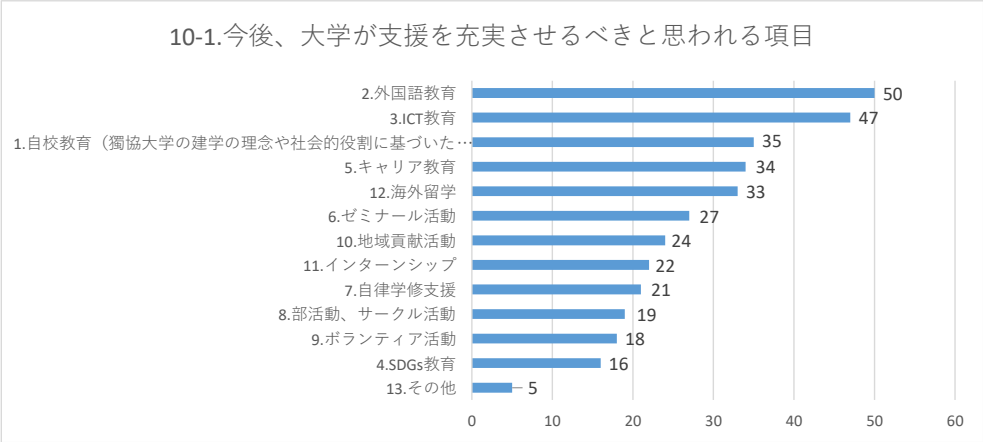
あなたの職業に照らして、次の能力（9-1～9-9）は、在学中に身につけておくべきだと思いますか？

	1.そう思う	2.ややそう	3.あまりそ	4.そう思わない
9-1.幅広い教養	84.9%	12.3%	2.7%	0.0%
9-2.専門知識・技能	58.9%	31.5%	8.2%	1.4%
9-3.外国語の運用能力	71.2%	23.3%	5.5%	0.0%
9-4.問題解決力	76.7%	17.8%	5.5%	0.0%
9-5.情報分析力	80.8%	16.4%	2.7%	0.0%
9-6.発信力	71.2%	21.9%	6.8%	0.0%
9-7.主体性	84.9%	12.3%	2.7%	0.0%
9-8.協働性	87.7%	12.3%	0.0%	0.0%
9-9.倫理性	82.2%	15.1%	2.7%	0.0%



10-1.今後、大学が支援を充実させるべきと思われる項目について（複数選択可）

項目	
2.外国語教育	50
3.ICT教育	47
1.自校教育（獨協大学の建学の理念や社	35
5.キャリア教育	34
12.海外留学	33
6.ゼミナール活動	27
10.地域貢献活動	24
11.インターンシップ	22
7.自律学修支援	21
8.部活動、サークル活動	19
9.ボランティア活動	18
4.SDGs教育	16
13.その他	5



10-2.10-1で「13.その他」を選択された方は、こちらに記入してください。（別紙）

11.大学の教育活動、キャリア支援についてご意見がありましたらご記入ください。（別紙）

10-2.10-1で「13.その他」を選択された方は、こちらに記入してください。

人間性を養う教養（リベラルアーツ）教育
卒業後公立大学の大学院修士課程に進学したが、ゼミの人数や指導体制が獨協と大きくことなった。小人数のきめ細かな指導やデータ収集・解析、論文の書き方など社会人になってからある程度役に立つスキルや作法の多くは大学院で学んだものだった。獨協大学は緩かったなんだなと自身の行動も併せて反省しきりだった。☒ 現況の獨協大の様子は知らないが、教養、専門分野共にもっときめ細かい研究、指導体制があればと思った。特にゼミはもっと深化できるのではないだろうか。 最近は〇〇業界にいたというだけで大学教員になるケースもあるが、何年も論文を書いていないような研究活動をおろそかにしている教員は淘汰されるべきと思う（獨協大学がそうだという批判ではなく一般論として）。
社会人教育
税制・金融教育
都市と地方、獨協と外国など自分が普段知らない地域を知り、結びつけていく力、過疎地との連携、情報発信など。地方自治を含め人々を動かしていく力を育むこと。起業家支援など１，５，７，１０あたりの融合系を想定
入学前からの履修相談

11.大学の教育活動、キャリア支援についてご意見がありましたらご記入ください。

海外在住の卒業生と現役生のマッチング☒
語学の獨協のブランドイメージは「英語学科・交流文化学科・言語文化学科」の印象が強く、法学部・経済学部についてはそこまで“語学”というイメージがありませんでした。☒ 法学部・経済学部にも“語学の獨協”というイメージが波及するために、キャリア支援として公務員対策講座のような「外交官養成（試験対策）講座」を用意し、両学部から外交官を何名か輩出することができれば、より“語学の獨協”というブランドイメージを構築できるのではないかと思います。
かなり充実してるのではないかという自負がある。
国際教養大学のような全員留学制度があるといいと思いました。
時代に合った教育を実践していかないと大学の生き残りは厳しいと感じている。特に今の小中高生は情報処理や投資など、これまで大学や社会に出てから身に付ける知識の素地をすでに学んで大学に入学してくる。教員はこの点を認識した上でカリキュラムを検討されていると思うが、職員もこの点をしっかり学んだ上で今後の大学での教育活動やサービスを検討する必要がある。
全ての卒業生がある程度外国語を習得できる教育活動をしていきたいと思います。キャリアセンターを中心にきめ細かく行っていると思っています。
以前と違い、昨今学生が本来やるべきことを、職員がやってしまい、手助けしすぎのような気がします。もう少し自立心を持たせて、勉学・留学・就職等、学生自らが計画して、自身の力で切り開いていけるように指導出来たら、と思っています。その過程において失敗も経験すると思いますが、過保護すぎる指導が、将来的にはマイナスに動くのでは、と危惧しています。
自分は獨協大学創立年に生まれた英語学科２０期生です。☒ 私が学生時代は，先生方との距離も近く，講義終了後も研究室に集い，先生・友人と楽しく語り合えたことが今の自分の糧になっております。☒ 最近は後輩に聞いても，一般化するつもりはありませんが，先生と学生の距離があり，講義の後の貴重な時間よりもバイトや自分の時間を優先する学生が多くなり，自分の頃とは隔世の感があります。☒ 創立から来年で６０年になり，普通の大学になってしまったのかなぁ～？とも感じます。もっとゼミナールのような獨協大学ならではの『少人数教育』という原点回帰が必要であると，卒業生の一人として感じております。
日本国内のICT教育、ひいては社会全体のIT化･DXは10年近く遅れていると言われている。特定の学科を創設しないことで文理融合人材を輩出するとしている情報科学教育プログラムについて、ただ単にITを並行して学ぶだけでなく、同プログラム中で学んだことを活かして専攻内容に落とし込むための学部専門科目に相当する授業があっても良いと考える。☒ 同時に、大学の設備環境のIT化･DXも世間一般と比較して大幅に遅れを取っている(学生からの申請が紙ベース･発行する証明書も未だに紙媒体のみ･LMSを複数利用している･UIを含む情報提供体制の問題など)と感じている。学生へのICT教育の一環にもなるので、積極的に取り組んでいくことが望ましい。
「キャリア支援」という言葉が指すものをもっと明確にする必要があるのではないか。大学が就職するための単なるステップということなら、極めて狭義のキャリアなので単純に「就職支援」で良い。多様な生き方や価値観があるなかで、どのように生計を立て、生きて行くか、もしくは様々な支援や補助制度などを使いながら自分のやりたいことを実現するかというリアルな生活を見つめる視点にたってはじめて本来の「キャリア支援」と呼べるのではないか。有名企業に就職した輝かしい先輩の話ばかりでは学生の頭の中にリアリティが形成されないと思う。☒ 大学の教育活動は流行のキーワードに左右されることなく、高度な学問を授けることにもっと注力するのが良いのではないか。
教養課程（1年生と2年生）がなくなったようですが、幅広い教養は必要です。☒ 当時、哲学は全学部全学科必須でしたが、現在も同じですか。選択科目となっていれば必須科目としてください。☒ また、前期または後期に創設者、天野貞祐氏の建学の理念と著書「道理の感覚」、さらに人生観を講義できる教師を確保すべきです。推薦候補としては、貝塚茂樹氏。（取り次ぎ可）
高校に勤めていた経験から、大学入学後にどれだけ学力（知力）・創造力・発信力が伸びたかを、出身校にアピールする場を大学が設定する（すでに様々な形で実施されてはいると思いますが）ことの必要性が、ますます高まってくると思います。
大学の教育活動については、卒業研究、卒業論文は大学での学びの集大成になるため、全学部で必修化したほうがよいと思います。☒ キャリア教育については、正課教育にもっと取り入れてもよいと思います。
社会に役に立つ人材の育成とは、一過性のニーズではなく、そこに普遍性があるべきだと思いますし、キャリア教育の根本は、どの企業に入るということではなく、社会で自分自身の役割をどのように全うしていくかではないでしょうか。その哲学が、天野先生の著書にも記されているかと思うので、それが共有できれば大学としてのカラーが出せるのではないでしょうか。
少し上述しましたが、学内、学生生活で学んだことを地域や、地方、海外などの課題解決に結び付けることができる人材が少子化の中いま求められています。☒ 若い力をバネに情報発信力を育んで欲しいのと、地域、地方都市、高齢者、社会的弱者にも目を向けてくれる人材の育成を希望します。ご要望があれば私も考え出来ることをしていきたいと思います。魅力ある獨協の皆さんの活躍に期待しております。
卒業生と連携し支援できる体制の構築。
専門分野を活かせる職業に付けるとは限らない。多種多様なもの（人・情報を含む）に接する機会が持てる時間、かつ、必要な時に情報を収集し判断できる知識やスキルを身につける時間とし、あとで振り返ってあの時間は貴重だったと思える存在がよい。
他の大学で非常勤講師として流通論を教えています。コロナ禍を経て、より街や企業と繋がり接する事が可能な世の中に戻りつつあると感じています。私達の世代では出来なかった、インターンシップや地域貢献には、是非積極的に取り組んで頂きたいと考えます。
低学年から自身のキャリアを考えることができる機会がより多くあってもいいと思いました。
キャリア支援について、１年次の必修科目など早い段階から就職活動について知る機会があると、３，４年次でよりスムーズに活動ができるように感じました。 様々な分野で活躍するOBOGによる講演などの機会がより増えたら学生によって有益であると感じました。
大学職員だけでなく、各業界別同窓会の先輩との接点を増やし、在学中から社会を具体的に学ぶ場を設定すると良いと思う。